

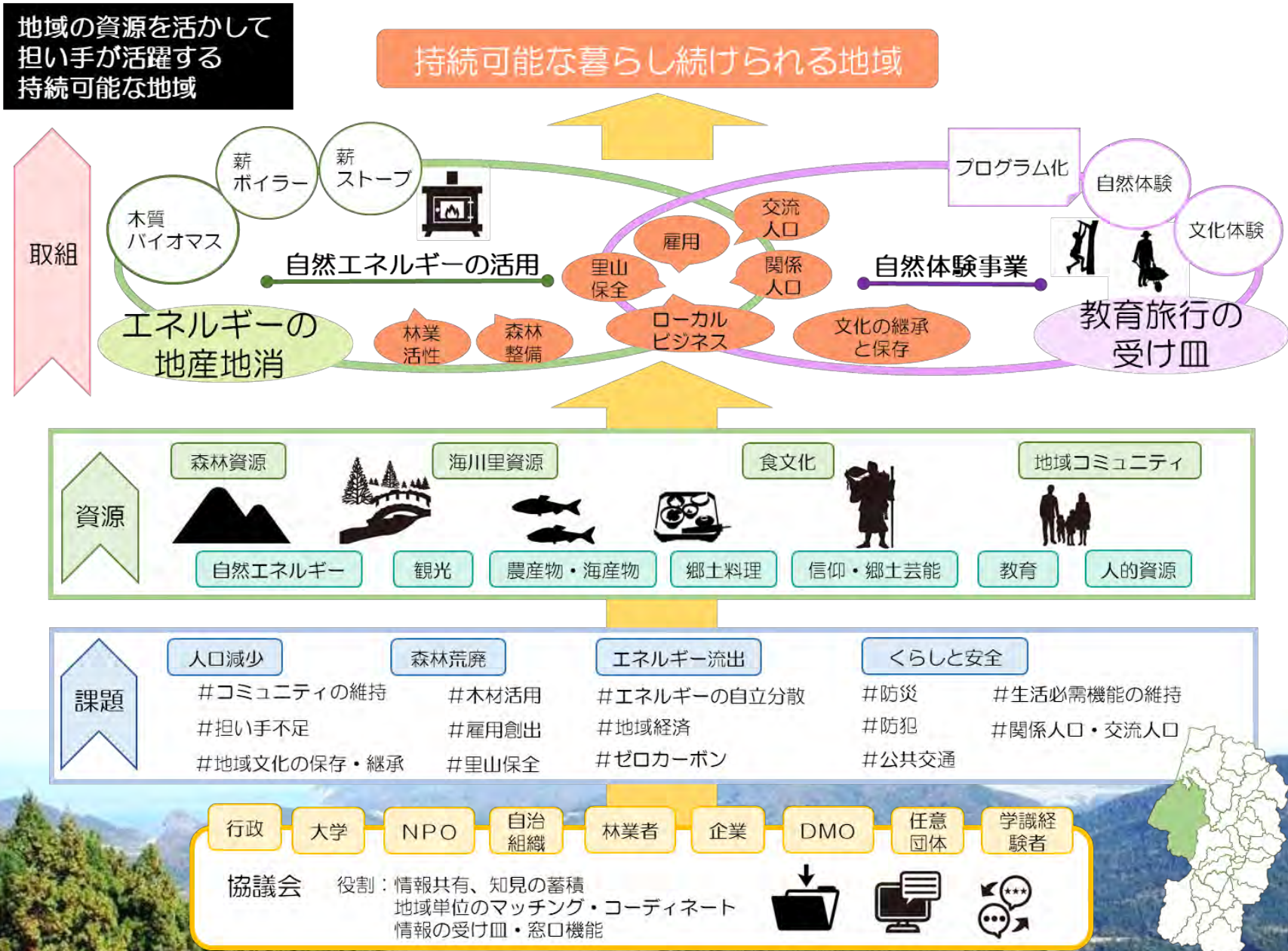
令和5年度 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

第2回意見交換会(成果共有会) 発表資料

活動団体名：日承循環合同会社

活動地域：山形県鶴岡市

今年度取り組んだ事業の概要



今年度取り組んだ事業の概要

- 自然体験の受入先や担い手を確保
⇒ 自然体験プラットフォーム構築
（サトモリツーリズムネットワーク）
- 自然体験を旅行商品として販売
⇒ 日承循環合同会社 第3種旅行業登録
（ツアーリンク庄内）
- 地域の魅力を体験プログラム化
⇒ 自然体験活動指導者講習会（タイケン道場）
⇒ 教育旅行受入、モニターツアー実施

自然体験プラットフォームの構築

少子高齢化が進み、地域の自然・文化・暮らしが
継承できない未来が間近に迫ってきている

解決の糸口・・・関係人口を増やすこと

関係人口は交流人口の先にある

関係人口

毎年数回訪れ、サトの人とも交流を持つ
イベントのスタッフとしても活動始める
里の産品を常用的に家庭で消費している



交流人口

ただ観光に訪れる

旅行者との**交流**を増やす



サトモリツーリズム ってなに？

交流人口である地元民と旅行者がサトの魅力だけではなく課題にも触れ、関係人口となり、いっしょにサトを盛りあげるきっかけを提供する、人生の旅。

※「サト」とは「大切にしたい場所」と定義づける

サトを盛りあげる人を

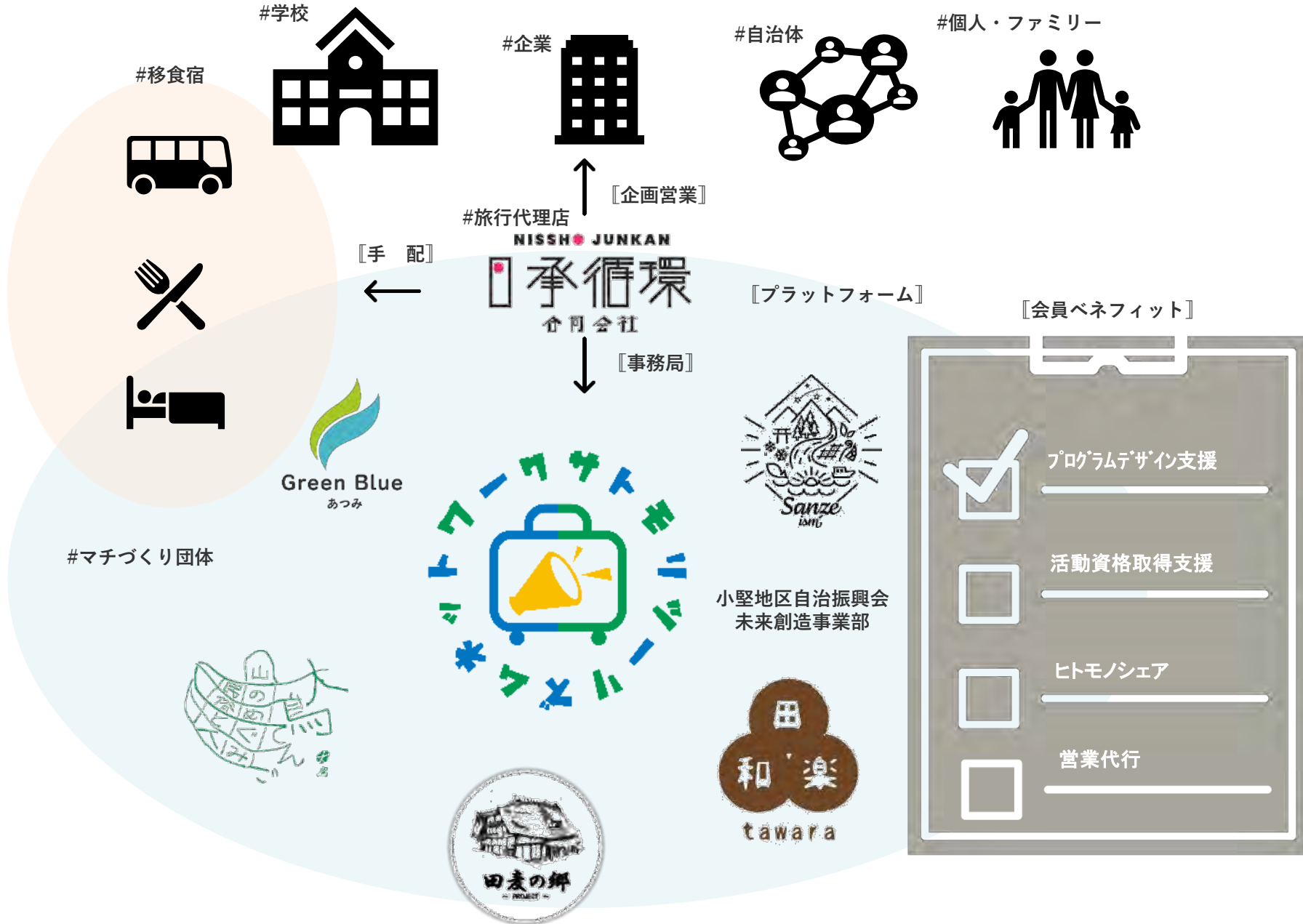
サトモラー

自然体験プラットフォームの構築



もちもの、応援っ！

自然体験プラットフォームの構築



サトモリツーリズムネットワーク (STN) 発足の会

■ 2024年1月28日(日) 10:00-13:30

■ 三瀬コミュニティセンター



令和5年7月20日 登録

山形県知事登録旅行業 第3-300号

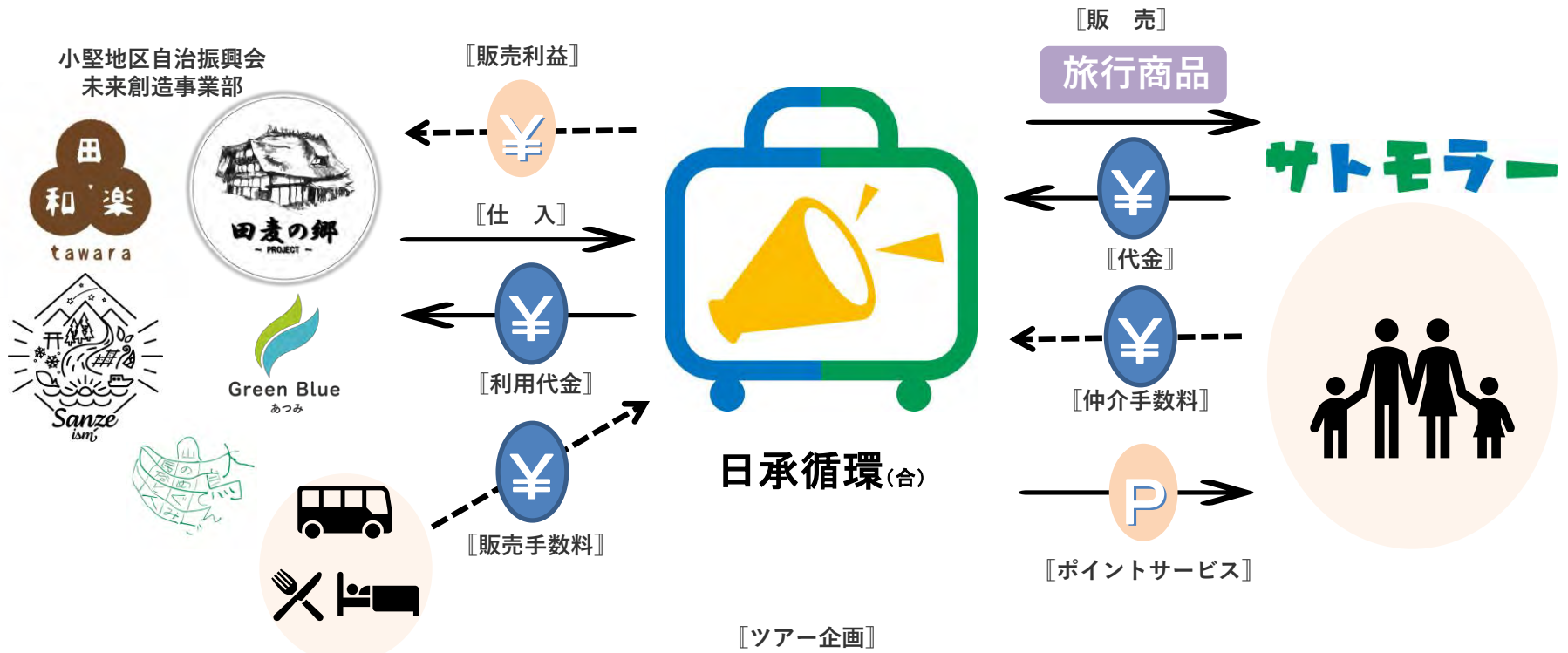
商号：ツアーリンク庄内

(社) 全国旅行業協会正会員



新たな50年に向けて

ツアーリンク庄内



日承循環：S T N体験プランと宿泊、食事、送迎等のプランを組み合わせて旅行商品（パッケージ）とし、旅行者に販売

【販売手数料】

宿泊施設 交通機関 食事施設 観光施設

【サトモリツーリズムメリット】

お客様（サトモラー）：ポイントサービスの提供

S T N参加団体：地域や団体への利益還元

自然体験活動指導者講習会

講習会名「タイケン道場 Vol.3」

【目的】 庄内地域において、体験活動の機会を意識的に提供できる基礎的な知識とスキルを有する指導者を養成する

【場所】 金峰少年自然の家

【参加者】 17名

- ・ ナイフワーク & 火おこし教室
- ・ ワークショップ（NPO法人自然体験温海コーディネートネット）
- ・ リスクマネジメント 講義とワークショップ
- ・ プログラムデザイン論
- ・ インタープリテーション論
- ・ 体験活動指導実習 15 分間のプログラムをつくる

教育旅行受入

東北高校 1 学年校外研修受入
9 / 6 (水) ~ 8 (金) の 3 日間

三瀬地域のひゃくねん森での活動

事前学習・・・学校側 2 クラスとリモート授業
三瀬地域の紹介と課題を共有

研修内容・・・約 2 時間半の現地研修

前半：ひゃくねん森をトレッキングしながら、
地主の方より林業や木材を利用した
再生可能エネルギーについて講話

後半：グループで火おこし体験、マシュマロ焼き体験

教育旅行受入

宮城教育大附属中学校 2 学年総合学習
9 / 1 2 (火) ~ 1 4 (木) 2 泊 3 日の行程

2 日目の 1 日間 1 5 4 名が温海、三瀬地域を中心に
地域の受入先 36 カ所で職場体験を実施

受入先が抱えている課題を共有したうえで
受入先の業務や活動と一緒にこなう

受入先の担当者にインタビューも行い、
人、モノ、地域の魅力をレポートにまとめる

日承循環は旅行会社として
行程の立案、現地手配、添乗業務を担当

モニターツアー実施

《自然体験プログラムのイメージを作る》

【目的】サトモリツーリズムネットワーク参加団体のメンバーがお互いのプログラムに参加して、ツアーパッケージのイメージをつかむ

《雪下あつみかぶの収穫と漬物づくりタイケン
& 温海旬御膳 ツアー》

日時：令和6年2月18日(日) 10:15～14:30

定員：10名

今年度の成果と成果が出た要因

- ・ 自然体験プラットフォームに参加を希望する団体への概要説明は各団体に個別に訪問し、プラットフォームの活動理念を丁寧に説明することで、その理念に強く共感した団体で構成することが出来た。

構成団体を増やしてく予定だが、焦らず急がず少しずつネットワークを拡大させていきたい。

- ・ 地元メディアに活動を取り上げてもらった事で

地域の活動団体の掘り起こしが出来た。

行政をはじめ多方面から連携を希望する話も頂けた。

次年度の展望と必要な取組

- ・来年度も各活動団体の体験プログラム化をサポートしながら、モニターツアーやテストツアーを重ねて、オペレーションや安全対策をチェックしていきたい。
- ・個人やグループなどの少人数の受入実績を増やしていき、大人数の教育旅行の受入もスムーズに実施できるような体制作りを心掛けていきたい。